

『植物と学生たち』

ガーデニング工房花の散歩道・園芸アーティスト はしもとまちこ

広島市内の少し郊外の短期大学で非常勤の講師をしています。20歳前後の女子学生を対象として生活に根差した環境についての授業です。

循環型社会が大切、地球が温暖化になっていくのはどうして、対策は？京都議定書の力は・・・ということですが、私の得意とする緑環境についての内容がメインなのです。

大学のすぐ裏手には<あかねの森>とネーミングしたチョットした林があり、孟宗竹が生い茂っています。ここに小さな花壇作りをしました。スコップも軍手も土も珍しい学生は藪蚊に刺され悲鳴を上げます。「でも、この授業がなかったら大学に森があることさえ知らずに卒業していたかも」とレポートに書いて私をほろりとさせます。

自然素材を使って蔓でクリスマスリース作り、うるち米のワラではオリジナルしめ縄作りもします。紙の再利用の大切さでは、英字新聞紙でエコバックを作ると、「ゴミだと思っていた新聞紙がこんなに可愛いバックになって、他の紙も大切にしよう」と言います。

5つのRも勉強しました。もったいないが身につけてきて最後のレポートには「食事の時のごちそうさまには有難うの意味も含まれていると判りました。」と書きました。

未来に向かってはばたいて欲しい学生たちです。



舟入病院前の花壇



学生達と作った
魔女のホウキ

『新しい家族』

やさしい暮らしの雑貨店 Paco 店主 矢野孝江

犬を飼い始めてちょうど1年になる。

「デール」と言う名の雑種の犬は、神石高原町にある「ピース・ワンコ・ジャパン」からやってきた。デールは、動物愛護センターにいたところ、犬の保護団体「ピース・ワンコ・ジャパン」が引き取り、私どもの家にくるまで、そこで生活していた。

HPで写真を見て、デールを飼いたいと思った私たちは施設へ会いに行った。

デールは、スタッフの人にとてなついていたが、私が手を出すと、震えてこちらに来ようとしめない。一番飼いたがっていた娘は施設内の多くの犬の鳴き声に怯え、不安そうな様子。本当に飼えるのであろうかと皆が心配したが、食事、散歩と徐々に信頼関係を結び、今では家族としてなくてはならない存在になった。



多くのペットショップがある中で、飼えなくなったなどの理由で動物愛護センターに引き取られた犬や猫の殺処分があることをご存じでしょうか。

雨の日の散歩は行きたくないのが本音だが、待っている姿を見ると長靴にカップで出かける。これがデールの生きている限り続ける、私の日課。

この1年で、少し体重が減ったことはデールのおかげでもある。

『パン作りのひととき』

社労サービス福山、社会保険労務士 佐藤則子

福山市で社会保険労務士として開業しています。広島市は、親の転勤のため小学生3年生から6年生までと、その後、大学生活を送った大好きな街です。

大学時代のアルバイトもパン屋でした。パンが大好きな私が自分で作り始めてから早14年になります。長男の保育園時代のママ友に教えてもらったのがきっかけです。習いたての頃は嬉しくて、クリームパン、あんぱん、フォカッチャ、シナモンロール…と色々作っていましたが、今は食事に合うシンプルな丸パンかくるみパンに落ち着きました。



私がパン作りの行程で一番好きなのは、生地をこねているときです。頭の中を真っ白に、何も考えず、ただひたすら手の中のパン生地をたたき、こねる。仕事柄、頭の中は考え事が絶えることはありません。加えて、難しい年頃の男子二人の子育ての悩み。そんな私の唯一無心になれるひとときがパンをこねている間なのです。(鬱憤ウッパンを晴らしているという説もありますが…) こねている間のパン生地の柔らかい触感と、イーストの香りにも癒されます。

翌朝食べるパンは、晩御飯の後片付けを済ませてから作り始めます。発酵も含め2時間ほどで出来上がります。焼きたての香りの甘い誘惑に負け、寝る前にも関わらず食べてしまうことが多々あります。その日最後のご褒美タイムです。ストレス発散と、美味しい焼きたてパン、一石二鳥のこの趣味は私のライフワークとなることでしょう。

『子どもと一緒にボランティア』

姉妹都市クラブ 代表 谷川ゆかり

会社員として働きながら、国際交流のボランティアグループの代表をしています。現在は5歳の息子の母でもあります。この他に海外から平和学習などで広島を訪れる方のホームステイを受け入れるグループにも入っていて、休日を利用して国際交流のイベントやホームステイの受け入れをしています。こう説明すると、「小さいお子さんがいるのによくボランティアをしているね」と言われます。確かに子育ては楽しいけれども大変。私も以前は仕事とボランティアで精一杯で、子育てをしながらのボランティア活動を想像できませんでした。



留学生と一緒に

そんな私でしたが、8年前に広島市の姉妹都市のひとつ、韓国の大邱広域市でホームステイをする機会がありました。ホストファミリーは3人の小さなお子さんがいる家庭で、一緒に買い物に行ったり料理をしたり、同じように子供がいるボランティア仲間を集めて交流会をしてくれました。その体験を通じてボランティアは子供も一緒に気軽な感じでもいいのだなと少し気持ちが楽になりました。実際、私に子供が生まれてから活動を縮小している部分もありますが、短期間のホームステイを受け入れたり、子供も参加できるような国際交流のイベントには息子を連れて行ったりと親子で楽しんでいきます。私のまわりでも子育て中のボランティア仲間が増えていくといいなと思っています。

第20号(平成27年11月15日)

『水彩画の楽しみ』

広島不動産インダ 石田晴美

再開発後の段原で不動産業を営んでおります。
お世話になった方やお客様に、季節の花や身近な広島の風景を水彩で描いた絵葉書を出しています。

小学校などで使うチューブの水彩絵具と違い、固形の透明水彩絵具を使います。小さなプラ容器に予め固めてある絵具を、水を付けた筆で少しずつ溶かして使います。透明なので、塗り重ねても、一度塗った下の色は隠れません。カラーセロファンを重ねるイメージです。水によって出来る、偶然のにじみがとても美しいのが面白いところです。



割と細密に描く方なので、「そっくりに描くより写真の方が喜んでもらえるのでは…」と自問自答することもあります。でも、お気に入りの色ばかり並べたホーローびきのパレットはきらきらした宝石箱のようで、蓋を開けるたび心に虹が架かりますし、外に出れば移ろう季節を見て「今日の空はセルリアンブルーよりコバルトブルーが多めだな」、「葉っぱの色が変わりはじめています。サップグリーンからオリーブグリーンの割合を増やさなくては」と、色水の調合に考えを巡らせる。

街の画材屋さんにはまるで異空間のようで、紙や筆を眺めている間は時間が経つのを忘れてしまいます。描くこと以外も、何より自分自身がこんなに楽しいのですから、これからも色々な広島を描き続けていきたいです。

第21号(平成28年1月15日)

『バトミントン』

食器専門店やまね 山根亜紀子

私は、8歳と5歳の子育てをしながら、広島の繁華街・流川で食器などを取扱っている「やまね」で働いています。もとは食器や料理にあまり興味がなかった私ですが、器にかこまれ料理人の方と接していくうち、食材や料理人の腕に加え、器にも料理を左右する大きな力があることに気づき大変興味深く仕事に励んでいます。



そんな私の休日といえば、子供の遊び相手をする事が多いですが、秘かなストレス解消として、子供と公園に行った際、12年間続けていたバトミントンのラケットを持ち素振りをしています。素振りが終わると動きを兼ねた、フットワークをしますが、我が子以外がこれを見ると大抵“引き”ます。が、お構いなしです。

中学生の頃、部活の先輩や先生がとても厳しく、シャトルを打ち合うのは2年生からと言われ、実際、打てるようになった時は、本当にシャトルを打つのが楽しくてしょうがありませんでした。屋外で風に吹かれようがどこまでもシャトルを追いかけ、打っていたのを覚えています。40歳を前に、実はこの頃と同じ気持ちを感じています。

まだまだ子供が手を離れるまで、練習に行ったり試合に出たりすることは出来ませんが“その日”が来るまで、広島の公園のどこかで基礎練習を重ねていきたいと思っています。

第22号(平成28年3月15日)

『仕事の合間に温泉めぐり』

広島ウインドオーケストラ団員 米澤陽子

主人の転勤で広島→松山→岡山と移り住んではや4年が経ちます。が、出身が広島で、楽器演奏(担当は『パパからもらった〜』で有名?なクラリネット)を生業としており、私の所属が広島ウインドオーケストラというプロの吹奏楽団体なので、月に一度以上は公演などで必ず広島へ舞い戻る生活を送っております。他の都市へと移り住んだから分かることなのかも知れませんが、広島は音楽も楽しもう!という雰囲気のある街だと強く感じます。聴くだけでなく、自ら演奏される方や演奏していたという方も多くて、それだけに吹奏楽、という「部活!」という印象も強いのだと思うのですが、「大人のデートに似合う演奏会」を掲げて自主公演も行ったりしておりますので、機会ありましたら、広島ウインドオーケストラの演奏会にも足をお運びください。



さて、好きな事を仕事に出来るのはこの上ない幸せですが、始終関わり続けるとたまには気分転換が必要です。三瓶で仕事をした折、露天風呂に連れて行って頂いて以来、温泉巡りにすっかりハマってしまいました。休日になると主人と一緒に出かけるとは、あのお湯はどうだった、こうだった、と素人なりに勝手に評価してまわっております。この文章を書きながらも、広島の温泉が懐かしくなってきました。湯来温泉・君田温泉・有福温泉・宮浜温泉… 広島近辺にも良い湯が沢山ありますね!ぜひ機会を作って、久しぶりに広島の温泉をゆっくり楽しみたいのです!

第23号(平成28年5月15日)

『芸の肥やし』

広島ウインドオーケストラ クラリネット奏者
藤岡恵理子

12歳からクラリネットを吹き始め30年以上経ちます。音楽はうんと小さい頃から好きだった記憶が。今、それを生業にできていることはとても幸せです。

音楽大学を卒業して、いわゆる「会社」に就職することなく、フリーで仕事をしてきました。音楽だけで生活できなかった時期は長く、さまざまなバイトをしてきました。コンビニ、カレー屋、パチンコ屋、喫茶店(←古い?)、割烹 etc…

わりかし長く(1年~4年)やってただけでもこのくらい。そう、サービス業ばかり。「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」のお仕事。無意識で選んだのかな? こうゆう仕事は好きですね。その店その店でサービス精神を磨かせてもらえました。

仕事としての音楽はサービス業だと思ってます。お客様に演奏をサービスし対価をいただく。「ありがとうございます」もちろんそこに芸術はあります。金儲け主義に走ると、お客さんいなくなっちゃいます。飲食店にも芸術があります。金儲け主義に走ると、お客さんいなくなっちゃいます。

私のクラリネットを養ってくれているのは、音楽の勉強だけでは決してありません。自分の演奏を聴いてくださる方が、満足してくれるにはどうすれば良いか?をいつも考えることができます。それもバイト経験のお陰です。感謝!

因みに…趣味の華道はおよそ20年になります。こちらは見せ



る(魅せる)ことや、感性を磨かせてもらってます。音楽により近い存在ですね。

これまでに経験したこと全てに無駄を感じません。良いことも、悪いことも、楽しいことも、辛いことも、全てが今の私を作ってくれました。

第24号(平成28年7月15日)

『奇跡の再会』

雑貨店経営 山田ゆかり

10年前のこと。

店の前を掃除していると、1匹の猫が足の周りをウロウロ
当時、猫が苦手な私は「なんだ！この子は」と戸惑いましたが、動物好きの主人は、その子に餌を食べさせ、寒いだろうと、店の前に小さい小屋を作ってくれました。

その子は、いつの間にか店の中に入ってくるようになり、ソファで寛いでいるのです。

その子は「まいき〜」と名付けられ、店の子になりました。それから5年後、5年ぶりに来られたお客様が、まいき〜を見て、「うちにいた子によく似ている」と言われ、いやそんな話はよくある事と聞き流していましたが、なんと、まいき〜が5年前にいなくなってしまう子だったのです。まさに奇跡の再会！今も、お客様とは親しくしています。まいき〜も皆様に可愛がっていただきましたが、今年、まいき〜は天国に行ってしまいました。

悲しみに伏せていましたが、5月の事。まいき〜にそっくりな子が、また店の前にやって来て、今はソファの上です。こんなことってあるのでしょうか…

これもまた、奇跡の再会。
私を猫好きにしてくれてありがとう！



第26号(平成28年11月15日)

～ノラ猫 クロちゃん～

NPO法人心豊かな家庭環境をつくる広島21 高東博視

真冬に「ミュー・・・」と外で子猫の鳴き声がある。我が家の柴犬「モモ」が猛突進して庭から追い出そうとしている。子猫は小さな背中を丸めて一人前に威嚇。長〜い尾、全身が真っ黒のノラ猫だ。

1か月後、大きなオス猫があの子猫を追っかけている。春先は猫たちの発情期だ。もしも子どもが生まれたり、その先は容易に想像できる。避妊手術しかない。数日後、意を決し子猫を捕まえ、借りてきたゲージに押し込んで動物病院へ。手術はわずか1日入院で無事に終わった。帰り際に「手術後、猫は恐れて家に寄り付きませんよ」と獣医さん。

まだ夜中は冷え込む、麻酔がさめると痛いだろう。その晩は、ゲージに入れたまま車の中で過ごさせた。翌日、ゲージを庭に持ち出して扉を開けた。一目散に逃げ出すだろうと想像していた。ところが目の前でゴロンと寝返りを始めた。獣医さんの話と全く違う。

勝手に手術をさせて、ほっておくのも身勝手すぎる。暫くは腹いっぱい食べさせてやろう！こうして1週間もすると、すっかり元気になった。そして我が家に居ついてしまった。朝夕の「モモ」の散歩には必ず付いてくる。後になり先になり一生懸命追っかけてくる。道ゆく人も不思議そうに振り返る。こんな猫は見たこともない。

我が家の主は「モモ」だ。新しい家族にするか、なかなか決心できない。2か月後、とうとう真っ赤な首輪を着けてやり「クロちゃんと名付けた。黒に赤が可愛く良く似合う。我が家は老犬と子猫そして大きなミドリガメ2匹の世話で大変なことになった。

